

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立北宇和高等学校三間分校
学校番号(43)

評価実施日		令和7年2月14日(金)	
委員	氏名	所属等	備考
	稲田 司	司法書士	
	渡辺 吉男	道の駅みま	
	谷口 友宏	宇和島市立三間公民館長	
	樋口 宏治	吉田三間商工会議所副会長	
	加藤 幸三	P T A会長	
	徳田 富実代	宇和島市立三間中学校教頭	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
1 今年度の最終評価について(学校評価アンケートを踏まえて)	
(1) 学校経営について 生徒一人一人のよさを見つめのばす教育の実践を行っている。教職員の勤務時間外在校等時間が減少しており、教職員の働き方改革が進んだものと思われる。	引き続き、三間高等学校の教育目標であった「生徒一人一人のよさを見つめのばす教育」を掲げ、実践していきたい。また、ICTの活用を今年以上に推進していきたい。
(2) 教科指導について 多様な生徒に対応するために、学習支援員や補助教員を配置するなど、きめ細やかな指導を行っている。読書指導については、ただ、指導するのではなく、雑談等、普段の生活の中で読書の大切さを伝えていってほしい。	引き続き、多様な生徒に対応するために、きめ細やかな指導を行ってきたい。また、ICTの活用による取り組みやすい課題の工夫を進めていきたい。 読書指導については、教員も生徒とともに読書する時間などを設定していきたい。
(3) 生徒指導について 挨拶や正しい言葉遣いについて、保護者や教職員は物足りなさを感じている。教員の方から必ず声を掛けるようにしてほしい。気長に辛抱強くやってほしい。 地域情報ビジネス部の活躍が素晴らしい。今後も地域と連携した活動を積極的に行ってほしい。	挨拶については、教員からの積極的な声掛けを行うほか、生徒会や委員会など生徒の力を発揮する機会を設けたい。 地域情報ビジネス部だけでなく、生徒全員が地域社会に目を向け、地域と連携し、地域に貢献できるように取り組んでいきたい。
(4) 進路指導について 進学も就職も生徒の進路希望実現のために丁寧な指導が行われている。 いろいろな資格を取得させていただいているため、社会に出て強みになると感じた。今後も資格取得に挑戦させてほしい。	実践的な講座や地域の方を講師に招いた人材育成講座をさらに充実させ、地域に貢献する生徒を育成できるよう、きめ細やかな指導を行ってきたい。 資格取得に向けた取組として、より効果的な方法を考えていきたい。
(5) 人権教育について 「人権あったかコンサート」への取組が良い。小・中・高などが同じ場で学習することは大切だと思う。今後も積極的に行ってほしい。	「人権あったかコンサート」では、小・中学生のリーダーとなるように普段から人権意識を高めていきたい。
(6) 特別支援教育について 一人一人の生徒に応じた支援ができています。少人数できめ細やかな指導ができることが、三間分校の一番の強みだと思う。保護者が子供を安心して預けられる学校である。	引き続き、生徒一人一人のニーズに対応したきめ細やかな指導を行いたい。通級指導についてもより効果が上がるように工夫していきたい。
(7) 学校安全と防災について 防災に関する取組が三間分校は進んでいて感心している。避難訓練も予告なしで行ったり、認定こども園の避難訓練に協力したり、消防団とともに防災について学ぶ場を設定したり、充実していると感じた。	避難訓練はさらに実際の被害を想定した訓練の企画・実践を図っていきたい。早めに計画することで、小学校や中学校とも連携した訓練ができると思うので、実施していきたい。
2 来年度の学校運営への提言 今年は、31名の生徒が欠けることなく1年を終えることができた。生徒たちが目標を見失っていないからだと思う。来年度以降もこのままの良い形で閉校に向けて準備していただきたい。来年度は2年生が極端に少ないため、さらなる工夫をお願いしたい。	閉校に向けての取組の一つとして、今年度、体育祭では、認定こども園や社会福祉協議会など地域の方々に参加していただいた。来年度以降も知恵を絞り、生徒に寂しい思いをさせないように工夫していきたい。